

公益財団法人すみれ学級

2021 年度（令和 3 年度）

事業報告書

1. 2021 年度財政報告と 2022 年度財政展望

2019 年度、2020 年度、2021 年度の収入は、下表のとおりです。

寄付金 (円)

年度	法人		個人		そうりん		藤井富生		子ども食堂応援プロジェクト		合計金額
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
2019 (R1)	146	3,600,131	237	5,337,881	4	8,000,000	3	9,000,000			25,938,012
2020 (R2)	173	4,941,615	264	4,316,080	3	9,000,000	6	5,135,000			23,392,695
2021 (R3)	130	3,638,000	246	8,808,974	0	0	1	5,000,000	6	1,092,640	18,539,614

寄付金 個人高額

2021 (R3)	遺贈寄付 2,838,747円 / 平山順一様 1,500,000円 / 江良信司様 500,000円
-----------	---

助成金等

(円)

年度	補助金 (大分市)		助成金 (企業・団体)		コロナ関連 雇用安定助成金等		合計金額
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
2019 (R1)	1	600,000	6	2,780,000			3,380,000
2020 (R2)	5	871,645	5	2,790,000	2	1,799,916	5,461,561
2021 (R3)	3	522,884	6	5,100,268	5	2,085,841	7,708,993

2021 年度の一般寄付金のうち「遺言」による寄付 2,838,747 円と、コロナ対策の雇用安定助成金 2,085,841 円をいただいたことで、そうりんの負担がなくなったことは、公益財団の財政健全化につながるものであり重要なものです。

また、2021 年度は寄付金等の収入が 2,314,139 円減りましたが、不足分を一般正味財産 2,470,232 円から充当しました。したがって、一般正味財産は期末残高 560,279 円になりました。

財政安定化に向けて

2022 年度は、2021 年度収入の「遺言 2,838,747 円」プラス「コロナ対策 2,085,841 円」の合計「4,924,580 円」を集めなければなりません。

幸いなことに WAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成金「700 万円」をいただくことができましたので、直接的影響は避けられますが、2022 年度限りの助成金です。

つまり、2022 年度は、「4,924,580 円」を別のところから獲得する以外ありません。

この金額を、「マンスリーサポーター制度」で確保する計画です。

また、個人寄付者は、遺贈寄付を除き 245 人で、総額 5,970,227 円です。コロナの影響下でありながら、一般寄付金が増額したことは、今後の寄付の増額が期待できる明るい兆しです。

2022 年度以降は、マンスリーサポーター制度（継続寄付制度）を導入し、継続的財政の安定につなげます。

月 1,000 円、年 12,000 円のサポーターを、1,000 人確保することで 12,000,000 円を目標としたいと考えています。

つまり年間予算の三分一を個人寄付で賄うのを来年度の目標としたいのです。

すみれ学級の抱えている課題は、本来なら行政が税金で解決しなければならない課題です。それを、一民間団体がやっているのですから、財政的に困難を極めるのです。

しかし、貧困（生理用品も満足に購入できずにあがいている女子児童・生徒・学生）、そして教育格差の広がりによる貧困の世代間連鎖等の現実には少しでも光をあてていき、行政の力を引き出すためには、実際やってみせることが必要なのです。

実際すみれ学級が2018年11月より始めたすみれ学級に来る女子児童・生徒に対する生理用品の配布を口火として、2021年より豊後大野市、大分市、別府市、臼杵市、中津市、杵築市、豊後高田市、日田市、日出町と9自治体で無償配布が開始されました。

フランスの実存主義哲学者サルトルは「飢えた子ども達に哲学は無力である」といっています。

哲学に力を与えるためには、「小なりといえど貧困に具体的に立ち向かうこと」、すなわち「飢えた子どもには、パンを」、「生理用品に困窮する女性には生理用品の無償配布を」、することが必要なのです。

法人の寄付は、コロナ禍で伸び悩んでおります。

残された道は、前に記しましたように、マンスリーサポーター制度、少額の個人寄付者の拡大以外ありません。そのために、ホームページも抜本的に改変し、多くの方に支援していただけるようにしていきます。

皆様のご協力を切にお願いする次第です。

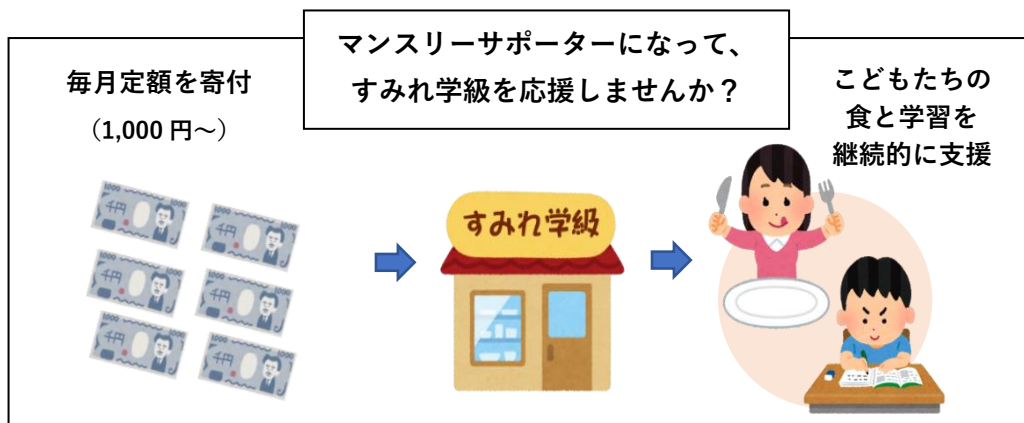
すみれ学級マンスリーサポーター制度

すみれ学級へのご寄付を一度の手続きで継続的にできる仕組み「マンスリーサポーター」にご加入いただくことで、すみれ学級は安定的に財源を得られ、子ども達への食事の提供や学習支援をさらに充実させていくことができます。

毎月定額を銀行口座引き落としやクレジットカード決済で自動的に寄付が行われます。

- 寄付金は、税額控除ができます。
- 寄付金額は月額1,000円から設定可能です。
- 銀行口座引落日（大分銀行・九州労働金庫・ゆうちょ銀行）：毎月25日
- クレジットカード決済日：毎月20日

* 金融機関が休業日の場合は、翌営業日に引落・決済を行います。



2. “生理の貧困”に対する活動とその成果

大分県下、豊後大野市を皮切りに、9市町、(大分市、別府市、中津市、日田市、杵築市、豊後高田市、臼杵市、日出町)が、児童・生徒に対する生理用品の無償配布を予算化して配布しています。

すみれ学級は、2018年11月より株式会社G-Place様(製品名:ナチュラムーン)の支援をうけ、すみれ学級に通う女子児童・生徒に「生理用品の無償配布」をおこなってきました。

2020年、2021年と安部理事とともに、臼杵市、大分市等の教育委員会等を訪問し、女子児童・生徒への無償配布を働きかけた成果です。(13~15頁参照)

行政が、予算措置をして、女子児童・生徒に生理用品の無償配布を始めたのは豊後大野市です。

私は、生理のある女子児童・生徒に無償配布すれば、相当の金額がかかったと思われたので、豊後大野市の教育委員会に「費用はどのくらいかかりましたか?」と問い合わせしました。

回答は、「初年度(2021年度)は70万円で、今年度は20万円の予算を組んでいます。が、まだ、どれくらい必要であるかはわかりません。豊後大野市の児童・生徒数は2,229名で、そのうち生理のある人数は把握していませんが、20万円の予算で足りなければ予備費から追加します。生理用品の無償配布で市の予算の他の部分が削減されるということはありません」との回答がありました。

豊後大野市の予算から見た場合「生理用品の無償配布」に掛かる費用は、豊後大野市の2022年度予算総額は、259億9,000万円ですから、生理用品に70万円かかるとして、**予算に対する比率は「0.002693343」**にしかありません。

おそらく、他の市町村においても比率はそう変わらないのでは、ないかと思われます。

これで、女子児童・生徒が、生理用品に困窮せず日常が過ごせるのですから問題は、**金額の問題ではなく政治、行政の感性の貧困、知性の貧困**にあるといえます。

「生理の貧困」は「女子児童・生徒」だけの問題だけではなく、高校生、大学生にも同じ事が言えるのではないのでしょうか。

女子高校生も、小学生、中学生と変わらない環境におかれているのです。

生理用品の無償配布は、女子高校生にまで、拡大されるべきです。

高校の管轄は、県にありますから、県に働きかけることが必要です。

すみれ学級は、2022年度も粘り強く生理用品の無償配布を関係各機関と連携し県に働きかけていきたいと考えています。

“生理の貧困”の取り組みの経過

《始めに》

2018年8月公益財団法人すみれ学級 藤井富生理事長から「生理用品に困っている女子小学生・中学生に無償配布したいが、どうだろうか？」と相談。

※ 大分県には、2,400人も生理用品に事欠く小中学校の少女たちがいる。

※ 世界各地には、すでに「生理用品」の無償配布や税額を下げるなど、様々な取り組みがなされている（末尾資料参照）。

《公益財団法人「すみれ学級」理事長&理事等の取り組み》

- ① 2018年11月 すみれ学級の子ども（小4～中学生女子）に無償配布開始！
2ヶ月に1回 昼用羽つき2袋、夜用羽なし1袋、普通の日用羽つき1袋の4袋を1セットにして提供
- ② 2020年8月
大分市内の2小学校（敷戸・鴛野）1中学校（植田東）にそれぞれ300セットずつ寄贈
- ③ 2021年1月12日～
配布校の3校に「生理用品をどのように活用したか」等の聞き取り（理事 高橋、理事 安部）
- ④ 1月14日～
戸次中、荏隈小、春日町小（大分県公立学校等女性管理職の会の会長・事務局長・次長の勤務校）へ、生理用品3セット配布と「生理の貧困について」説明及び取り組み依頼（理事長 藤井、理事 安部）
※ 榎島事務局長が役員会（2月開催）で「生理の貧困」について説明
- ⑤ 1月20日
佐藤樹一郎大分市長に「生理の貧困」についての資料を届ける
- ⑥ 1月25日
大分市長に面談・資料説明（理事長 藤井、理事 安部）
- ⑦ 2月9日
すみれ学級 榎田事務局次長が春日町小学校に生理用品を届ける（6セット）
- ⑧ 2月10日
三浦大分市教育長へ生理用品無償配布の取り組み依頼（代理教育監 高橋芳恵氏が対応）
- ⑨ 2021年2月19日
第6回大分市総合教育会議で説明（理事長 藤井、理事 安部）
※ すみれ学級通信No.12
※ 2月19日午後、養護教員部会で市教委が「生理用品を貸与から提供に変更」と指示

- ⑩ 臼杵市への働きかけ（「いずみ会」臼杵市理事：吉賀京子さんと）
- 3月5日 臼杵市教育長と面談（理事長 藤井、理事 安部。吉賀京子さん同席）
- 3月10日 臼杵市議会議長、K議員へ説明（理事 安部、評議員 平山）
- 4月14日 臼杵市 中野五郎市長に説明：理事長 藤井、理事 安部、評議員 平山
（市議会議長、K議員、市教委 後藤課長同席）
- 6月16日 臼杵市6月議会でK市議一般質問「女性の人権の視点から、生理用品の無償配布の必要性」
- 回答 「小中学生の女子トイレに常設する」「実態を調査し次年度から予算化を図る」
- ・・・ 9月から小中学校の女子トイレに生理用品を常設
- ⑪ 豊後大野市への働きかけ（理事長及びマスコミで数回報告・報道）
- 2021年1月下旬
- 豊後大野市のスクールソーシャルワーカーより、生活困窮世帯の児童生徒に生理用品の無償提供を要請され、8セットを毎月提供。
- このことを契機に「豊後大野市での生理の貧困」についての実態把握が開始される。
- 2021年7月
- 豊後大野市の女子児童・生徒に生理用品の無償配布を開始。（大分県で最初の取り組み）
- ⑫ 10月21日「いずみ会」役員会・研修会で「生理の貧困と生理用品の無償配布」について講話（理事 安部）※高橋理事「不要な布を活用した布草履づくり」の講話。布草履売上金は「すみれ学級」へ寄付。
- ⑬ 2022.5.10 大分市佐藤光好教育長へ「4/1より大分市内の小・中学校トイレに生理用品を常設」のお礼（理事 安部、評議員 平山）
- ※ 教育長より「高校生も同じように困っている。取り組みができていないことが気になる。」とのお話を伺う。

≪全国では≫

「生理の貧困」に関わる地方公共団体の取り組み

第1回調査 2021.5.19 255 団体

第2回調査 2021.7.20 581 団体 ※2ヶ月で2倍以上の自治体が取り組む

国の方針で示された

- ・ 6月に発表された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」に、今年（2021年）、生理への貧困への対応が初めて明記された。
- ・ 具体的な内容を示した「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2021」で生理の貧困を「健康や尊厳に関わる重要な課題」と指摘

《これから》

生理をめぐる問題については、初潮から閉経後の更年期まで生涯を通じたケアが必要。生理をめぐる私たちの想像力の貧困がまだまだある。

これからも、声を上げにくいがゆえに“存在しない”とされてきた問題に目をこらし、解決に向けた取り組みを続ける。

世界各地の状況（資料）

2021年10月現在

- ① 生理用品を必要とする全女性に無償で提供
2021.11.24 スコットランド自治政府決定
(2017年7月低所得の女性に無償配布)
- ② 18歳までの全女性に無償支給
2019.11.29 韓国ソウル市議会 市内に住む18歳までの全ての少女に無償支給決定(325,000人が対象)
2016年より貧困層の11歳~18歳の少女に支給
- ③ 小・中・高校生などの全ての学校
2018年 ニューヨーク州(2016年から非課税)
2019年秋から ボストン市
2019.9 イギリス(2020年3月非課税)
2021.2.3 フランス政府 無償配布する機械を設置と発表、9月から実施
2021.6 ニュージーランド政府(買うことが困難12%、12人に一人が学校を休んだ)
- ④ 小中学校で
2021.6 英イングランド 無料で入手できるようになっている
2021.6 ニュージーランド 学校で無償配布実施
- ◎ アメリカ・オハイオ州の企業「Aunt Flow」: 企業や大学で100%オーガニックコットンの生理用品を提供 500以上の会社に導入

生理用品を軽減税率の対象に

イギリスは軽減税率の対象から非課税

インド2018年から、オーストラリアでは2019年から課税が撤廃

世界各国が非課税のうねり

日本では谷口歩実さんがオンライン署名サイトで

税改正後に税率8%の対象品目には「飲食料品」「週2日以上発行される新聞」のみ ※生理用品は対象外

女性の人権を中心とした人権文化が高揚した！

(文責：理事 安部ノリ子)

生理用品無償配布 〈 資料 〉

① 生理用品無償配布数

	2021年					2022年		一回平均
	4月	6月	8月	10月	12月	2月	合計	
1組	10	11	12	12	15	12	72	12.0
3組	7	2	2	2	6	6	25	4.2
4組	18	18	20	20	20	15	111	18.5
5組	4	7	5	5	8	8	37	6.2
6組	4	-	2	2	2	2	12	2.0
野口	7	11	12	12	12	12	66	11.0
計	50	49	53	53	63	55	323	53.8

② 取材

2021年度は、マスコミの取材を積極的に受け、“生理の貧困”について社会に訴えることができました。

・西日本新聞	『風向計「座布団1枚の想像力」』	2021年4月23日
・毎日新聞大分支局	『「生理の貧困」行政は支援を』	2021年6月16日
・大分合同新聞	『「生理の貧困」に救いの手』	2021年7月8日
・NHK大分放送局	総合テレビ いろどり OITA「イチオシ」コーナー	2021年11月30日
・NHK大分放送局	5時いろラジオ『県内でも支援が広がる“生理の貧困”とは?!』	2021年12月10日

3. 学習支援の充実

(1) パソコン教室

1組（敷戸教室）で、2021年2月から開始しました。学習指導員がゲームのプログラミングを教えました。児童に、遊びを通して、パソコン操作に慣れてもらいました。

(2) 学習指導の充実

イ 1組（敷戸教室）

- 学習指導員は21名（社会人2名・学生19名）が在籍しています。学生は大分大学経済学部・教育学部・福祉健康科学部です。
- 小学生は、指導員の声掛けで宿題を終わらせています。宿題が終わった後は、友だちや指導員とゲームなどをして楽しく過ごしました。
- 中学生は、テスト前や高校受験前になると参加者が増える傾向がありました。学ぶことの楽しさを伝えることも必要と考えています。
- 学習指導が終わると、皆で1日の反省を行い、児童・生徒の状況を報告し合い、明日の指導に向け会議を行いました。
- 大分県社会福祉協議会で、「すみれ学級の学習支援について」の講演を2022年1月31日に、大分大学経済学部4年生の学習指導員が行いました。講演会の参加者はスクールソーシャルワーカー・社会福祉士等20名です。
- 進学教室の高校合格者は7名。進学先は、大分西・大分南・大分工業・大分商業・東明・揚志館・溝部学園（看護科）です。

進学教室 高校合格

- 2019年度 大分高専・豊府・大分南
大分工業・福德学園
- 2020年度 大分南・大分工業・福德学園
- 2021年度 大分西・大分南・大分工業
大分商業・東明・揚志館
溝部学園（看護科）

ロ 4組（別府はるかぜ教室）

- 学習指導員は10名（社会人2名・学生8名）が在籍しています。学生はAPU（立命館アジア太平洋大学）と別府大学です。

- 米国人の英会話講師による英会話教室は、ネイティブの英語に接することで異文化交流もし、ゲームや工作をしながら楽しく教えました。
- 子ども達にすみれ学級での過ごし方を考えてもらうために始めた「ノート」への記入は、指導員とのコミュニケーションツールのひとつです。記入内容を読み、子どもを観察するようになりました。そのため、様々な課題も見つかり、学習指導員同士での話し合いも活発に行われました。
- 進学教室は7月から始めました。参加者がほとんどいないため、2021年10月25日、中部中学校・朝日中学校に生徒へチラシの配布をお願いしました。その後、冬休みに数名の参加がありました。しかし、コロナ感染防止のため一時休業しましたので、再び参加者はほとんどいなくなりました。
中学生の部活動や保護者の送迎等の理由で、火・木の開催はニーズに合っていないことがわかり、2022年4月から、開催日を土曜11時～14時に変更し、昼食を提供することとしました。5月の参加者は延べ23人です。
- **2021年11月から、児童養護施設光の園（別府市荘園8組）へ学習指導員の派遣を開始しました。**中学生の家庭教師2名（週1回・火曜）、「光の園公文教室」のお手伝い1名（週1回・土曜）。
学習指導員を派遣するにあたって、光の園所長 上鶴勝之様に事前研修（2021年11月11日）をしていただきました。

ハ 3組（小池原教室）

- 2021年7月より元小学校教諭が学習指導員として来てくれるようになりました。これで長らく休止に追い込まれていた学習指導が再開されました。
- 当初は、「教科書」を持ってくることが嫌がっていた児童も今では、全員教科書を持ってきて勉強し始めました。清水先生によると、簡単なことで「よくできたシート」にシールを貼ってあげる」ことで勉学意識が高まるようで、つまり「褒めてやる」ことが重要だそうです。

ニ 6組（岩田教室）

- 子どもたちが滞在する部屋が6畳と狭く、その中での学習指導ですから困難を極めていますが、教職経験者の学習指導員が子どもたちの話をよく聞き、子どもたちがリラックスして過ごせる空間となっています。食事のマナー等の生活習慣の指導も行いました。
大分県内のコロナ感染が急増したため、2022年1月21日より休止しています。

4. コロナ禍における学級運営

子どもの将来がその子には何らの自己責任もないにも拘わらず、その生まれ育った環境によって左右されるような不条理があってはならず、すべての子どもが健やかに育成される環境を整備するため、引き続き子どもたちの「食」の確保と、学習支援、居場所づくりや生活相談、さらには進学指導のための事業を継続して行いました。

現在その渦中にある新型コロナウイルス感染症が、いつどのような形で収束するか極めて不透明ですが、そうする間にも子ども達を襲う「飢餓感」「学習保障」「居場所の欠落」を少しでも補うため、大分県社会福祉協議会とも連携しながら、こども食堂事業を進めました。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

① 新型コロナウイルス感染症予防対策

大分県内で、コロナ感染が急増（ステージ3）したため、すみれ学級を一時的に休止しました。その際、ご利用者・家族及び施設提供者、近隣の小中学校には電話や手紙で説明をしました。

コロナ感染防止による一時休止期間

1組（敷戸）	8/21～9/30、1/24～3/31
3組（小池原）	8/21～9/30、1/24～3/21
4組（はるかぜ）	8/20～9/27、1/24～3/21、3/23～3/31
5組（三重）	8/21～9/12、1/22～3/21
6組（岩田）	5/21～7/30、8/20～10/31、1/21～
野口ふれあい子どもカフェ	5/23～6/13（コロナによる公民館の休館）

② 検温、手洗い、スタッフ及び児童生徒の体調確認の徹底

入室時の検温・手洗い・マスク着用、食事時の唾液飛沫を避けるため、無言の食事を行いました。学校給食で行われている前方注視での食事は、3組（小池原教室）を除き、他の教室は食事のスペースが限られているため実施できませんでした。

③ アクリル仕切り板の設置などの唾液飛沫対策

食事以外はマスクの着用を徹底して行いました。児童生徒に、人との距離を保つように注意を促しました。

④ 換気、衛生器具の設置

手指消毒薬を常備し、入室時・食事前の消毒を徹底しました。常時窓を開け、空気の流れをつくり、換気しました。

- ⑤ 子ども達及びスタッフに感染者または濃厚接触者が出た場合
すみれ学級の活動において、幸いなことに感染者や濃厚接触者は出ませんでした。数名の学習指導員が、すみれ学級以外のところから感染しましたが、保健所の指示に従い、勤務を休みました。

(2) すみれ学級通常事業

- | | | | |
|------------------------|---------|-----|-------|
| ① すみれ学級 1 組 (敷戸教室) | 夕食・学習指導 | 月水金 | 大分市 |
| ② すみれ学級 3 組 (小池原教室) | 夕食・学習指導 | 月水金 | 大分市 |
| ③ すみれ学級 3 組 (小池原教室) | 朝食 | 火木土 | 大分市 |
| ④ すみれ学級 4 組 (別府はるかぜ教室) | 夕食・学習指導 | 月水金 | 別府市 |
| ⑤ すみれ学級 5 組 (三重教室) | 朝食 | 月～金 | 豊後大野市 |
| ⑥ すみれ学級 6 組 (岩田教室) | 夕食・学習指導 | 金 | 大分市 |

(3) 地域の要望等に基づく継続事業

- ① 別府はるかぜ教室における夏期休暇中の土曜日の昼食提供 2021 年 7 月～9 月
今年度はコロナ感染防止のため開催できませんでした。
- ② 野口ふれあい子どもカフェ
別府市の旧野口小学校跡地で毎週日曜日に昼食及び学習の場を提供。
10 時から 12 時まで。昼食はコロナ感染対策のため、別府市内の飲食店で弁当を購入し、配布しました。

(4) すみれ学級 進学教室

- ① すみれ学級 1 組 (敷戸教室 / 大分市)
火木土 17:00～20:00 夕食あり
- ② すみれ学級 4 組 (別府はるかぜ教室 / 別府市)
火木 17:00～20:00 夕食あり (2021 年 7 月から開始)
* 2022 年 4 月より変更 土曜 11:00～14:00 昼食あり

(5) すみれ学級 各教室でのイベント開催

- ① 毎月一回、誕生日会を開催
- ② 季節の行事を開催
(こどもの日・七夕・ハロウィン・クリスマス・ひなまつり)
- ③ すみれ学級 5 組 (三重教室) 親子食事会を開催
(2022 年 3 月 28 日/ こども 21 名・保護者 8 名 参加)

(6) すみれ学級 開催日数と提供食事数 * 32～33 頁参照

(7) 大分大学経済学部との連携協定の継続

本協定は、2017年5月に締結されました。大分大学経済学部の授業で、現実の地域社会における社会的課題を現場体験や地域交流を通じて発見・認識し、課題解決に取り組み、すみれ学級1組をその場として提供しました。

(8) 危機管理の徹底（子ども達の安心安全面への配慮）

万一、不慮の事故等に対する傷害保険への加入のほか、食物アレルギーに対する保護者への聞き取りについても行いました。

調理・生活指導員の検便検査は2022年度に行う予定です。

5. 2021年度（令和3年度）開催日数及び参加者数

2021年（令和3年）度 開催 延べ日数（開催日数 278日）			
様 態	名 称	開催頻度・曜日	開催 延べ日数
夕食	1組（敷戸教室）	週3回 月・水・金	101
	3組（小池原教室）	週3回 月・水・金	105
	4組（別府はるかぜ教室）	週3回 月・水・金	100
	6組（岩田教室）	週1回 金（10月まで週2回）	26
朝食	3組（小池原教室）	週3回 火・木・土	110
	5組（三重教室）	週5回 月～金	188
昼食	野口ふれあい子どもカフェ	週1回 毎週日曜日	46
進学教室	1組（敷戸教室）	週3回 火・木・土	100
	4組（別府はるかぜ教室）	週2回 火・木	42
合計			818

コロナ感染防止による一時休止期間

1組（敷戸）	8/21～9/30、1/24～3/31
3組（小池原）	8/21～9/30、1/24～3/21
4組（はるかぜ）	8/20～9/27、1/24～3/21、3/23～3/31
5組（三重）	8/21～9/12、1/22～3/21
6組（岩田）	5/21～7/30、8/20～10/31、1/21～
野口ふれあい子どもカフェ	5/23～6/13（コロナによる公民館の休館）

2021年度（令和3年度） 参加者集計													
													(人)
	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	合計
開催日数	97	81	89	91	61	19	99	96	97	61	4	23	818
1組	88	50	116	99	46	0	72	102	109	48	0	0	730
3組	86	58	50	46	20	0	68	71	82	27	0	19	527
4組	66	78	68	65	18	0	68	100	88	10	0	45	606
5組	175	151	212	156	90	116	182	154	172	79	0	88	1,575
6組	47	16	0	0	17	0	0	20	24	7	0	0	131
野口	45	28	25	48	55	90	45	44	52	51	97	95	675
3組朝食	56	34	60	51	26	0	74	52	57	30	0	24	464
1組進学	34	49	59	55	37	0	32	74	57	38	0	0	435
4組進学	0	0	0	11	10	2	0	0	5	2	0	0	30
合計	597	464	590	531	319	208	541	617	646	292	97	271	5,173

参加者数・食事提供数・スタッフ総数

年間参加児童・生徒等数 **5,173 人**

食事提供数 **6,648 人**

スタッフ総数 (2022年3月現在)

調理・生活指導員 **15 人**

学習指導員 **34 人**

6. 2021年度（令和3年度）各教室の報告

すみれ学級1組（敷戸教室）																	
開催場所	大分市敷戸西町1182-298										開設日	2016年8月					
開催日 と 開催内容	月・水・金										夕食の提供と学習支援						
	火・木・土										中学生対象の進学教室・夕食の提供						
在籍 スタッフ	調理・生活指導員					3人											
	学習指導員					21人					専任2名+大分大学経済学部生など19名						
参加者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均	
	小	60	30	71	62	16	0	47	39	63	26	0	0	414	101	4.1人	
	中	28	20	45	37	30	0	25	63	46	22	0	0	316	101	3.1人	
	計	88	50	116	99	46	0	72	102	109	48	0	0	730	101	7.2人	
	進学教室	34	49	59	55	37	0	32	74	57	38	0	0	435	100	4.4人	

コロナ休業：8/21～9/30、1/24～3/31、スタッフ数：2022年3月現在

取材や視察

1組は、大分大学経済学部と連携協定を結び「地域課題探求型教育」（子ども食堂と連携し、社会課題の解決方法を考える）のフィールドワークの場所として機能しています。

その様子は、毎年多くの視察や取材を受けました。学習指導員（経済学部 学生）や調理・生活指導員の皆さんが視察の方や報道の方に、子ども達の様子を伝えております。

開設6年目に入り、学習指導も生活指導も十全に行われております。

特に進学教室は、教育格差をなくという意味でも、確実に成果をあげています。



OBSの取材 2021年11月15日



学生が中心になって企画運営をしています。

クリスマス会 2021年12月22日



夕食は寄贈の野菜やデザートを使っています。

1組（敷戸教室）スタッフからの報告

調理・生活指導員 山本 美千子さん

2021年度総括

コロナ禍ですみれの子供たちに感染者が出なかった事がよかった。
感染を意識しすぎて少し窮屈な思いをさせたのかもしれない。

2022年度について

抱負 思いきり笑ったり、お喋りしたり、触れ合ったり出来ると良いと思います。

目標 次も又行きたいと思ってもらえる場所作りを目指したいです。

学習指導員 多口 由紀音さん（大分大学）

2021年度総括

新型コロナウイルスに対して、食事の際の座る位置や換気など感染対策を徹底することができました。しかし、勉強を教える際に、子どもたちとの距離が近くなることがあったため、アクリル板越しに指導するように心がけていきたいです。

2022年度について

抱負 子どもたちの話を聞くことを今まで以上に意識し、ひとりひとりの性格を理解して寄り添っていきます。

目標 食による健康を届けるだけでなく、心も健康になるような笑顔あふれる教室を目指します。



卒業する大学生（学習指導員）のお別れ会 2022年3月17日

すみれ学級3組（小池原教室）																		
開催場所		大分市小池原団地 集会場										開設日		2018年2月1日				
開催日 と 開催内容		月・水・金										夕食の提供と学習支援						
		火・木・土										朝食の提供						
在籍 スタッフ		調理・生活指導員					4人					朝食2名、夕食2名						
		学習指導員					1人											
参加者数		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均	
		夕食	小	67	50	39	38	15	0	53	62	74	26	0	16	440	105	4.2人
			中	19	8	11	8	5	0	15	9	8	1	0	3	87	105	0.8人
			計	86	58	50	46	20	0	68	71	82	27	0	19	527	105	5人
		朝食	小	23	22	31	31	18	0	54	45	50	28	0	20	322	110	2.9人
			中	33	12	29	20	8	0	20	7	7	2	0	4	142	110	1.3人
			計	56	34	60	51	26	0	74	52	57	30	0	24	464	110	4.2人

コロナ休業：8/21～9/30、1/24～3/21、スタッフ数：2022年3月現在



学習指導

2021年度より指導についていただいた元小学校教諭の清水先生。

子ども達のやる気を引き出し、勉強道具を持ってくる子が増えました。

しばらく食事のみの開催となっていた小池原教室。子ども達の変化はうれしい限りです。



土曜日の朝食前は“工作タイム”



ボランティアの高校生とゲームをする児童

3組（小池原教室）スタッフからの報告

3組 学習指導員 清水 俊明さん

1. この1年よかったこと（7月頃から現在まで）

少しずつ勉強をさせていこうと思っていた矢先、コロナで学級が休みになりました。教室が復活した後、シールなどで勉強時間を記録し、そのシールが10個たまったらごほうびをあげる（トークンシステム）を取り入れました。すると少しずつ勉強するようになり、今ではほとんどの子どもが学習に取り組んでいます。

2. この1年困ったこと

学習面；勉強する様子もなく、意欲も見られなかったこと

施設面；学級の照明が暗く、勉強しにくいこと

生活面；子どもたちに挨拶の習慣がついていないこと

3. 来年度どうしていきたいか

- ・学習の習慣がついてきたので継続する
- ・子どもにきちんと挨拶をさせる
- ・時間を守るようにする

3組 調理・生活指導員 坂東 千津子さん

3組は活動をはじめて4年を超えました。当初は20名前後の子どもが来ていましたが、コロナ禍で少なくなりました。

「いただきます」「ご馳走様」をうまく言えなかった子どもが、いつの間にか成長し、地域の子どものリーダーになっている姿を見ると感慨深いものがあります。

すみれ学級で朝ごはんを食べ、学校へ送り出す。すみれ学級で夕ご飯を食べ、家庭へ帰っていく。食という素晴らしい接点があります。子ども達の一生の思い出になるよう、共に過ごせる時間を大切にしたいと思います。こども達は国の財産です。宝です。ロボットのような機械人間にならないよう思いやりのある大人への成長の手助けをさせていただくことができ、これほどうれしいことはありません。



クリスマス会のデザート作り

子ども達のリクエスト
「焼きそば」（夕食）

朝食

すみれ学級4組（別府はるかぜ教室）																	
開催場所	別府市鶴見8-5 社会福祉法人 洗心会 別府高齢者総合ケアセンターはるかぜ内										開設日	2018年6月1日					
開催日 と 開催内容	月・水・金										夕食の提供と学習支援						
	土										中学生対象の進学教室・昼食の提供						
在籍 スタッフ	調理・生活指導員					1人											
	学習指導員					10人					専任2名+APU・別府大学学生8名						
参加者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均	
	小	60	70	62	62	15	0	64	97	77	9	0	23	539	100	11.9人	
	中	0	2	0	3	3	0	4	3	11	1	0	10	37	100	11.9人	
	他	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	12	30	100	11.9人	
	計	66	78	68	65	18	0	68	100	88	10	0	45	606	100	11.9人	
進学教室				11	10	2	0	0	5	2	0	0	30	42	11.9人		

コロナ休業：8/20～9/27、1/24～3/21、3/23～3/31、スタッフ数：2022年3月現在



英会話教室

マイク先生は、工作など手を動かすことを交えながら、楽しく英語を教えています。国旗のクイズやクリスマスハウス作りを楽しみながら学びました。



児童養護施設光の園 学習指導員派遣

光の園所長上鶴様に事前学習をしていただきました。施設のことなど初めて聞く内容で、学生は熱心に質問をしました。（2021年11月11日）



4組（別府はるかぜ教室）スタッフからの報告

学習指導員 藤井 美樹さん

2021年度について

良かったこと

- ・新小学1年生が4人入った事。
- ・すみれ学級にきている子供の両親から新しい生徒を紹介してもらった事。
- ・1年間子供達が怪我やコロナもなく無事に過ごせた事。

困ったこと

- ・コロナ休業をし、その為に一旦子供達がすみれ学級から離れていった事。

2022年度について

抱負

- ・子供達を平均的に増やしていきたいと思います。
- ・もっと子供達に寄り添い、相談事などを出来る環境を整えたい。
- ・子供達に勉強の癖をつけてもらう。その為には子供達にノート書きを徹底します。

目標

- ・コロナ休業にならない様に、先生達に個々で十分にコロナ対策をしてもらう。又、その指導も徹底する。
- ・新しい子供達が早くすみれ学級に慣れて、快適に過ごせるようにする。
- ・先生達も新しくなった事ですし、先生達を新たに指導し、ほう（報告）、れん（連絡）そう（相談）を強化する。



寄贈のカボスでジュース作り



はるかぜの入居者様の読み聞かせ



クリスマス会 2021年12月20日

4組 学習指導員 嵩元 盛都さん（立命館アジア太平洋大学）

よかったところ

- ・新型コロナウイルスの影響を受けながらも、子どもたちが集まれる居場所として役割を果たしたところ
- ・新型コロナウイルスのクラスターが起らなかったこと

反省するところ

- ・学習指導員からコロナ陽性疑惑がでることがあったことは仕方ないと思うが、対応が少し遅れてしまい、子ども食堂当日に対応できる指導員の数が少なくなってしまうこと
- ・指導員間、職員間での報告、連絡、相談が不足していたこと

2022年度の抱負

- ・子どもたちがより安心して過ごせる場所を作る
 - 学習指導員も子どもたちとの接し方を勉強する・工夫する
 - 子どもと接する機会・時間を増やす
 - 子どもたち一人ひとりにかかる時間を増やす
- ・4組で対応できる子どもたちの数を増やす
 - 対応できる学習指導員の数を増やす
 - 学習指導員の質を上げる
- ・小学生・中学生の宿題などの学習面をサポートする
 - 勉強を教えられるように準備しておく
- ・学習指導員が子どもたちと関わることを楽しむ

すみれ学級4組（進学教室）の目標

- ・すみれ学級に来た中学生たちに
 - 「勉強できる場所」
 - 「おなかを満たせる場所」
 - 「友達と話せる場所」という認識を定着させる
- ・報告・連絡・相談+対話を増やしてより良い関係を作れるように努力する
- ・来た子どもたちだけでなく、学習指導員にとっても居場所とを感じる場所を作る
- ・子どもたちが学ぶことに楽しさ感じられるように、子どもの心に寄り添える強さ、言いたいことを伝えられる技術を高める



2021年度 進学教室担当の学生

すみれ学級5組（三重教室）																	
開催場所	豊後大野市三重町市場1509-1 (三重第一小学校 近く)										開設日	2019年1月15日					
開催日と開催内容	月 ～ 金										朝食の提供						
スタッフ	調理・生活指導員					6人					シルバー人材センターからの派遣職員 2022年1月24日～すみれ学級直接雇用						
参加者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均	
	小	122	113	164	110	62	89	136	114	116	60	0	55	1,141	188	6.1人	
	中	53	38	48	46	28	27	45	40	53	19	0	19	416	188	2.2人	
	他	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	14	18	188	0.1人	
計	175	151	212	156	90	116	182	154	172	79	0	88	1,575	188	8.4人		

コロナ休業：8/21～9/12、1/22～3/21、スタッフ数：2022年3月現在

行事食

ここ数年恒例化してきた、デコレーションカレーのランチ会。今年も七夕とクリスマスに行いました。

朝から調理生活指導員の皆さん総出で仕込みをされ、とても可愛らしい織姫彦星カレー、もみの木カレーを作りました。



里芋まんじゅう

近くの方がたくさん里芋を寄贈してくださり、里芋まんじゅうを作りました。季節の素朴なご馳走。

子ども達も美味しく食べました。



クロワッサンのサンド

寄贈のパンをサンドイッチにしました。いただいたものは工夫して、メニューに加えます。

5組（三重教室）スタッフからの報告

調理・生活指導員 三浦 美代さん

2021年度は、七夕まつり、クリスマス会、親子で朝食会、フードフェスティバル、もちつき大会などご寄付やご寄贈のおかげで十分食材を使ってイベントができました。イベント後は子どもの利用者の数も増加し安定してくるので、準備は大変ですが今後も続けていきたいです。しかし本当に経済的理由や家庭の事情によって栄養のある食事をとることができない子どもたちに届くような宣伝、広める工夫をしたかという自信はありません。

そこで、スタッフ一同、根気よく「いつでも、だれでも、きていいよ」という雰囲気を出し続け、色々方法を模索しています。

2022年度は、ソーシャルワーカー、民生委員、児童委員、更生保護委員の方々とも連携をとりながら地域全体で子どもを育てていく意識をもって子どもたちの支援をしたいと思っています。

三重教室の目標は「おいしいはうれしいこと、楽しいこと」ということに、子どもたちに気づいてもらい、お腹いっぱい食べる、みんなで食べれば孤独な子もおしゃべりできるようになれる、そんな子ども食堂にしたいです。



親子朝食会 2022年3月28日



調理・生活指導員 杉坂 テル子さん

(1) 2021 年度について

よかったところ

- ・四季を通じたメニューによる食事ができた。
- ・親子で参加できるイベントの評判がよかった。
- ・小学6年生が中学生になっても利用してくれること。

反省点

- ・小学生の利用者が少なくなった。
- ・イベントの時に世話になっている近所の方を招待したかった。
- ・イベントの時に履物の整理ができなかった。(玄関が狭かった)

(2) 2022 年度について

抱負

子どもとのかかわり方

- ・名前の書き方、その他の記入事項をていねいに書く指導

こんなことをしてみたい

- ・親子で参加できるイベントを増やしたい
- ・民生委員・児童委員さんを交えて、子どもに対する意見等を聞きたい

目標

子どもが相手の気持ちを受けとめてくれるような居場所づくり

調理・生活指導員 首藤 ツヤ子さん

(1) 2021 年度について

よかったところ 親子で参加できるイベント

反省点 メニューのむつかしさ

(2) 2022 年度について

抱負

子どもとのかかわり方

- ・朝の挨拶、食事中の態度等、注意すべき点は注意する
- ・時間のゆるす範囲でそれぞれの性格を知る

こんなことをしてみたい

- ・昨年度同様、親子で参加できるイベントを続けたい

目標

子ども達が気軽に参加できる雰囲気の教室

調理・生活指導員 神田 美智子さん

2021 年度も季節ごとのイベントがいろいろありました。何日も前からの準備は大変でしたが、良かったと思っています。

一人ひとりの性格を知り、その子の個性に合わせてのしつけをしていきたいです。

「おはよう」「いただきます」—— 子どもたちの元気な声がききたい。
“5組の子ども達は、みんな、元気、仲よし”

調理・生活指導員 衛藤 美砂子さん

長引くコロナの影響で行事が中止や延期で振り回されました。

5組は行事を大切にというコンセプトで七夕まつり、クリスマス会、もちつき大会、フードフェスティバルなど精力的に行ってきました。準備は大変ですが、終わってみれば、良かったなあと思います。

その中でも、もちつき大会はハプニングがたくさんあり、良い経験でした。次回は失敗を生かして頑張りたいと思います。

近頃、慣れたのか、早朝で元気がないのか、挨拶を忘れている子どもがいます。こちらから声をかけて返事をしてもらうようにしています。

一人ひとりを大切に、同じ気持ちで接したいと思います。

おばあちゃんの家に来るような気持ちで来てもらえたら、うれしいです。

調理・生活指導員 小川 妙子さん

2021 年度は小学生から中学生へと進級された子ども達も部活などが多くなり、来てくれるか心配していましたが、全員来てくれてとても良かったと思っています。

来年度も新一年生をはじめとし、小学生が増えてくれる事を期待しています。

朝食という限られた時間の中で、なかなか話もそうできませんが、道端で会った時など声をかけてくれ、とても嬉しいです。

今コロナ禍の時代、いろんな意味でできる限り声をかけていきたいと思っています。

すみれ学級6組（岩田教室）																	
開催場所	大分市岩田町1-7-7 サンライト岩田201号										開設日	2019年4月9日					
開催日と開催内容	金（2021年11月より週1回に変更）										夕食の提供と学習支援						
在籍スタッフ	調理・生活指導員					2人					調理・生活指導員のうち1名はボランティア						
	学習指導員					1人											
参加者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均	
	小	32	11	0	0	11	0	0	15	17	5	0	0	91	26	3.5人	
	中	15	5	0	0	6	0	0	5	7	2	0	0	40	26	1.5人	
	計	47	16	0	0	17	0	0	20	24	7	0	0	131	26	5人	

コロナ休業：5/23～7/30、8/20～10/31、1/22～、スタッフ数：2022年3月現在



久しぶりの再開

コロナ感染状況と家主の方の健康状態を見て、しばらく休業していた岩田教室。

11月に久しぶりに再開したときは子どもたちがとても喜んでくれました。

メニューも子どもの大好きな3色丼。

甘い大学芋のデザート付きです。

8月に少しだけ再開したときは、「2か月休むなんて長すぎる！」とご立腹のこどももいました。

子ども達の大切な居場所、岩田教室です。



6組（岩田教室）スタッフからの報告

調理・生活指導員 佐藤美保子さん

岩田教室はコロナの影響大で今に至るまで再開に至っていません。自宅での限られた部屋ですので難しいものがあります。

しかしながら、狭きながらもひとつのテーブルを囲むこども達は話がはずみ笑顔が絶えません。家族の様で嬉しい気持ちになります。

お母さん達にもよく声かけをします。おかげでお母さん達とも繋がっており家でこのこどもの様子や子育ての悩み等もよく話して下さるので、こどもの事を良く把握できるので良かったと思っています。

2022年度の抱負はとにかくコロナが収束して、安心して食堂を再開出来ることです。

食を通して学ぶことは沢山あります。こども達にはその都度食事の大切さや、感謝の気持ちを育んでいけたらと思います。

私達の教室でも母子家庭、孤食、父親不在等家族力が低下していると感じています。

こども達にとって居心地のよい場所づくり、そして食事提供はとても大切になります。

それには私達が心を込めての食事づくりそしてこども達の安全を考え安心、信頼を得られる様に努力していくことが大切だと思っています。



クリスマス会の食事には、子ども達に大人気の“手作りプリン”を添えました。
2021年12月24日

食事の前には、メニューをこどもが読みます。そして、「みんな笑顔で、いただきます」
と言って、食べています。



野口ふれあい子どもカフェ																		
開催場所	別府市野口元町12-43 野口ふれあい交流センター											開設日	2018年10月7日					
開催日と開催内容	毎週日曜日											昼食の提供						
在籍スタッフ	調理・生活指導員					0人					コロナ対応により弁当配布							
	学習指導員					4人					4組（別府はるかぜ教室）と兼任							
参加者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開催日数	1日平均		
	小	38	24	23	38	42	68	39	40	45	44	77	68	546	46	11.9人		
	中	6	4	2	10	12	16	6	4	7	7	20	27	121	46	2.6人		
	他	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	8	46	0.2人		
	計	45	28	25	48	55	90	45	44	52	51	97	95	675	46	14.7人		

コロナ休業：5/23～6/13、スタッフ数：2022年3月現在

クリスマスのおうち

今年度から工作を取り入れて活動している野口ふれあい子どもカフェ。

クリスマス会に向けて、段ボールで家を作りました。

壁面に糊を塗って、白い紙を貼り、それに折り紙やモールで飾り付けをしていきました。

クリスマス会が終わってもこの家は大好評で修理をしながら遊んでいます。



パステル画



牛乳パックのおうち



段ボールは家具屋さんからいただきました



ケーブルカー



工作の材料は空き箱や包装紙などを再利用しています

学習指導員 今川博之さん

2021 年度の総括

コロナ禍にあっても感染対策をし、教室を休止することなく継続したことにより、参加者数も減少することなく、現在も 15～16 名が来ています。

時間割の設定をし、一日の流れの習慣ができました。

10：00～ 学習時間

宿題等を持参していない児童には課題（プリント）を与える。

自由時間（学習終了後）

晴れた日には指導員付き添いのもと
グラウンドでボール、バドミントン、
滑り台などで遊びます。

その週のイベント（工作やクイズ大会など）

11：45～ お片付け

11：50～ ミニ英会話教室

12：00～ お帰りの会、昼食弁当の配布



2022 年度について

母子寮からの子どもも来ますので、個人情報の取り扱いに注意し、子どもが安心して過ごせるようにします。

中学生は、小学生とは別の部屋で学習できるようにし、高校受験に向けた学習支援に力を入れます。

貧困の世代間連鎖を学習の面から断ち切るという思いと情熱を持って子どもの成長を助けていきたい。



ミニ英会話教室

子どもにホワイトボードに絵を描いてもらい、
英語で言ってもらおうなど工夫をしています。